



杉並区立 杉森中学校
学校だより 第315号
平成23年10月31日
平成23年度 第6号

「地域と共に成長する杉森生を！！」

校長 大橋 亮介

10月初旬、新聞記事の題名が気になった。その題名は、「余命半年 未来のために」である。記事は、福島県南相馬市で産婦人科医師を続けて約40年、高橋先生72歳を紹介したものだった。先生が取り上げた子は数えきれず、「ずっとここで医療を」と考え、充実した晩年期を送っていた。ところが、診察中にあの3.11の震災に遭い、その翌日からけがをした患者があふれ、原発事故を知っていたが、「俺がいなくなったら誰が診察するんだ」と医療活動を続けた。町からはあつという間に人が消え、ほかの医院も閉鎖が相次いだ。逃げることはできなかった。震災から2日後、検死に訪れた高校の体育館では見慣れた顔がいくつもあり、出産に立ち会った母親もいた。この人たちの無念を考えると町に残る高齢者の診察や、どうしても地元で赤ちゃんを産みたいという妊婦の出産を受け入れ続けた。原発事故から2ヶ月、少しだけ町が落ち着いてきた頃、自分自身の体に異変を感じた。診察の結果は、直腸がんが肺に転移し、余命半年だった。高橋先生は、「やるだけやって死ぬなら後悔はない」と決断し、残された少ない時間を、妊婦の家で放射線量を測り、除染方法の研究を重ねている。高橋先生は、「原発が変えたこの町で、できることを続けたい。母と子の笑顔があふれるようにしたいんだ」。

この記事を読んで思ったことは、「私はこの高橋先生のように生きられるだろうか？」人生は、自分で決める。当たり前のことだと思う。しかし、生き方を決めるには、自分自身とその人を取り巻く環境が大きく作用しているように思う。高橋先生は、生命の誕生を長年見続けてきたからこそ、「いのちの大切さ」を人一倍強く感じているのだと思う。医者だからこそ、多数の死にも立ち会っていることと思う。今度は、自分自身が「その死に近づいてしまっている」。だからこそ、人を助け、新たな生命誕生の手助けをしようとしているのではないだろうか。

生徒には、心身ともに健康で、様々な体験をしながらたくましく生きしてほしいと願っている。高橋先生のように、目標を持って最後の最後まで命を大切に人生を送ってほしいと思う。

私は昔から、「親より早く死ぬのは親不孝である」と思い続けている。ただし、病気や不慮の事故などの例外はある。お父さん、お母さんから、自分が生まれる。お母さんは、大変な思いをして自分を産んでくれた。そして、大切に育ててくれた。にもかかわらず、「自分自身で命を絶つようなことがあってはならない！」と思う。

これからの人生、「自分の命そして人の命」を大切にし、みんなと、明るい未来にしよう。

～ 10月の活動アルバム ～



【合唱コンクール】 21日(金)

この日のために練習し、ミーティングを重ね、また練習し、いよいよ迎えた本番です。学年・学級・選択音楽・吹奏楽部の素晴らしい発表が会場に響き渡りました。



美しいハーモニーと共に作り上げたクラスの団結・協力そして協創を、忘れないでください。

感動的な合唱をありがとう！



【3年コミュニケーション授業】 24日(月)

SC光延先生よりアサーション＝自己主張の必要性を学びました。言葉選びや言い方の大切さを知りました。



【出張音楽教室】 26日(水)

日本フィルハーモニー交響楽団による金管五重奏を鑑賞しました。楽器ごとの歴史・エピソードもお聞きました。



【杉教研・幼小中合同研究会】 5日(水)

杉森中の授業を杉一小・馬橋小の先生方にご覧いただき、全体会と分科会で意見交換し、交流と相互理解を深めました。



－科学創意工夫展－

本校より11名が参加しました。各校からの力作が揃う中、
1年 廣野 晴さん「カビについて」が教育委員会賞、同じく
青山 怜華さん「塩害について」が優秀賞を受賞しました。

【11月予定】

2(水) 校内研究授業(2年 道徳)

5(土) 東京都教育の日

授業参観

道徳授業地区公開講座

7(月) 振替休業日

8(火) 連合音楽会(2年)

3者面談(3年)～14(月)

13(日) PTA分区バレーボール大会

18(金) 期末考査～22(火)